



こうか
まちかど特派員

くわやま 桑山 幸子



近所福祉、子どもたちとなごやかに

水口町北部に位置する山村地域の八田地区、数百メートルも行けば湖南市との境です。人口約2500人でその3分の1以上が75歳以上のこの地域、ここで行われている近所福祉「いこいの会」のなごやかな風景をご紹介します。

八田地区では、近所福祉を立ち上げ7年目に入りました。福祉推進員のOBの方々の声掛けで、一人暮らしの方や高齢者世帯の方が家にこもらないでいられるようにとの目的で発足しました。お隣同士の誘い合いで、この日も20名ほどの方々が参加されました。

今回は、夏休み中ということもあり、地区の小学生全員の男子10名、女子9名が、皆さんに見てもらいために、それぞれ趣向を凝らした出し物をしました。男子は、6年生3人がリコーダーで「崖の上のポニー」を吹き、低学年の子どもたちが、曲



▲会場に響く元気な歌声



▲コミカルな赤ずきんを熟演

に合わせて大きな口を開けて歌を一杯歌ってくれました。そして女子は、赤ずきんの寸劇をしてくれました。自分たちでダンボールに絵を書き、それぞれの役柄の服装をまとい、少しはにかみながら、演技をしました。

子どもたちのその姿に、参加者の方々は、「ようまあ、いつの間にかいこしたんかなあ」「何にも知らなかった」としばらくの間、畑仕事などのことも忘れ、自分たちも子どもに帰ったように嬉しそうに手拍子をしておられました。

男の子たちはあっという間に終わ

ってしまい、みんな、「もっと歌いたかった。」と言っていました。女の子は、「おじいちゃん、おばあちゃん顔が見えた時はドキドキしたけど、がんばってけいこしたのを見てもらえ嬉しかった。」とほっとした顔を見せてくれました。

この地域では、お年寄りとの同居が多く、いつも一緒に過ごしているおじいちゃん、おばあちゃんたちに分からないように、こっそり歌や劇の練習をしていたとのこと。子どもたちの一生懸命な姿、日ごろの孫とは違った姿を見て喜んで拍手する姿。本当に心温まるひと時でした。

子どもたちの出し物の後、スタッフの方の指導で、「芝はちクン」という人形作りが行われました。「あれ、いつの間にかおじいさんの顔に似てきた。」など話しながら、子どもたちも完成させていました。

参加者の方からは、「本当に子どもたちに元気をもらったなあ。」と、嬉しそうな声が聞こえていました。

子どもからお年寄りまで、住み慣れたところで、住民同士支え合っ

行こうと

いう前向

きな姿勢

がとても

素晴らし

いと感じ

ました。高

齢化率が

高く、小さ

な集落の八

田地区です

が、地域全

体が家族の

ような交流

は、地域を元気にさせます。

こうした素晴らしい活動が、これから先、もっと大きな取り組みに発展し、輪が広まっていくと、さらに笑顔があふれる元気なまちができると思います。

誰もが安心してそして楽しく暮らせるまちづくりが進んでいくことを願っています。



▲終始笑顔に包まれた会場